

【國立台灣大學文學院 101 年跨國界的文化傳釋計畫】

學術交流演講（一）

〔第一場次〕

神仏習合思想の展開と日本中世文芸
—春日信仰を視座として—

〔第二場次〕

中世説話文学における浄土信仰と遁世観 —
鴨長明を中心として—

授課老師：近本謙介 教授（日本國立東北大學）

授課時間：2012年11月14日（三）

第一場次： 8：10～10：00

第二場次： 10：20～ 12：00

授課地點：校史館 108 教室

主辦單位：台灣大學日本語文學系

講演者略歴

【学歴】

1983年3月31日 福岡県立東筑高等学校卒業
1983年4月1日 大阪大学文学部入学
1987年3月31日 大阪大学文学部卒業
1987年4月1日 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程入学
1990年3月31日 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了
1990年4月1日 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程進学
1995年3月31日 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了
1996年3月25日 博士（文学） 大阪大学

【職歴】

1995年4月1日 天理大学文学部講師
2000年4月1日 天理大学助教授
2006年4月1日 筑波大学大学院人文社会科学研究科助教授
2008年4月1日 筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授（制度変更による。）
2012年4月1日 筑波大学人文社会系准教授（改組による。現在に至る。）

【著書】

- ・『日光天海蔵 直談因縁集 翻刻と索引』（共編著、和泉書院、1998年）
- ・『春日権現験記絵 注解』（共編著、和泉書院、2005年）

【論文】

- ・「説話集における神祇—僧侶による参宮話とその周辺—」（『国文学 解釈と鑑賞』、2007年8月、至文堂）
- ・「南都復興の継承と展開—慶政の勸進をめぐる二つの霊託—」（『文学』 第11巻第1号、2010年1月、岩波書店）
- ・「解脱房貞慶の唱導の多面性と意義—今津文庫所蔵『解脱上人御草』所収「南京北山宿非人等敬白」をめぐる—」（『説話文学研究』 第45号、2010年7月）
- ・「南都における信仰空間の草創と継承—鳥羽院造立春日御塔をめぐる—」（『中世文学と隣接諸学 中世文学と寺院資料・聖教』所収、2010年10月、竹林舎）
- ・「遁世と兼学・兼修—無住における汎宗派的思考をめぐる—」（『無住—研究と資料—』所収、2011年12月、あるむ）

【要旨】

第1講「神仏習合思想の展開と日本中世文芸—春日信仰を視座として—」

第2講「中世説話文学における浄土信仰と遁世観—鴨長明を中心として—」

第1講においては、院政期から鎌倉時代への神仏習合思想の展開を、春日信仰を視座として、中世文芸との関わりから論じる。神仏習合思想の観点から春日信仰を考えたとき、鎌倉時代初頭は大きな転換点として位置づけられる。この思想史における転換点について、平重衡による南都焼き討ちやその後の歴史的展開との関わりから考えるが、そこに文芸の領域がどのような意義を有したのかについて議論を深めていく。藤原氏の氏神である春日神に対する信仰においては、その本地仏を釈迦如来とする言説や、天照大神との一体を説く言説などが重要であるが、これらを先導した人物として、興福寺僧の解脱上人貞慶が想定される。貞慶の事績と文芸をたどりながらその意義を考えると同時に、それが鎌倉時代初期の阿弥陀信仰や女人救済の思想とも深い次元で関わりを有することを明らかにする。

第2講においては、中世の説話文学に見られる浄土信仰と遁世観について再考し、新たな視点を提示する。鴨長明が日野の方丈の庵に隠棲し、『方丈記』や『発心集』を著したことは著名である。『方丈記』には長明が目目の当たりにした災厄が数多く記されるが、長明と同時代に目を向けたときに、遁世をめぐる意識と環境とはどのように位置づけられるであろうか。この問題について、晩年に編集されたと考えられる『発心集』の巻頭に配された玄賓説話や白河院と永観をめぐる説話などに着目しながら考察を進めて行く。さらに、『発心集』において見出された問題を、それを継承した鎌倉時代の説話集にも援用することによって、中世文学史の中に位置づけることを試みる。

なお、第1講と第2講とはそれぞれ独立した話として展開するが、両者が密接に関わる点について最後に言及する予定である。2012年は、第1講で取り上げる貞慶の800回遠忌の年であると同時に、第2講で取り上げる鴨長明『方丈記』成立800年の年に当たっている。